

各部会での令和元年度検討報告並びに令和2年度の検討テーマ一覧

部会	R1年度検討内容			R2年度 検討内容		
	R元年度検討テーマ	検討内容、結果・方向性	検討回数・方法	検討テーマ	理由	協力してもらいたい部会
病院部会	緊急時の受け入れについて (継続)	多職種ワークショップ研修会を病院で開催することにより、病院と在宅(地域)の連携ができる。今年度は同職種間でのグループワークの機会もあり、病院としての役割を伝えることができる良い機会となっている。 また4月にはケアマネット部会の研修にて、安城更生病院、八千代病院、松井整形外科の各医療機関の役割を説明させていただいた。 【結果・方向性】 多職種ワークショップ研修会は、110名の参加があった。継続して実施している研修会であるが、病院の役割を理解していただくことと病院と在宅スタッフが意見交換できる場は貴重で、この研修会を通して地域にも啓発していく。また次年度もケアマネット部会で、病院機能についての役割(仮)の内容で研修を予定している。		緊急時の受け入れについて	この地域(安城市)の病床は限られており、病院が受け入れをすべき、緊急時について継続して検討していく。 毎年のテーマであるが、重要な課題である。	
医師会部会	在宅医療の充実に向けて	在宅医療の充実に向けて、3/28に第1回の会議を開催し、計4回の会議を開催。多死時代を迎える中、在宅医療に携わる医師の負担軽減のため、在宅看取り時の協力体制を構築するとともに、より多くの医師が在宅医療に参加できる環境を整えることを目的にシステムを構築することとなった。 死期の迫った在宅療養患者がいて、かつ主治医が不在となるとき、予め代理医を定め診療情報を提供し、死亡時の診断を依頼することとした。死亡診断をスムーズに行うため訪問看護の介入を必須条件とし、依頼やマッチングの円滑化を目的にサルビー見守りネットへの加入も利用条件とした。事務局機能を在宅医療サポートセンターが担うこととなった。 システム開始前に訪問看護ネットワークに対し、事前の説明と協力依頼を行った 8月よりシステムが開始となり、11月末までに3回の依頼実績あり。いずれも待機のみで終わった。 年度末を目途に再度会議を招集し、実績の検証とシステムの改善や見直しに向けた検討を行っていく予定。	会議 4 回 参加人数 延べ 61 人	在宅医療の充実に向けて	引き続き、このテーマに取り組む必要があると考えるため。	
歯科医師会部会	多職種連携のために歯科医師会として出来ること	・OHATの多職種連携における有用性について ・KTバランスチャートの多職種連携における有用性について 【結果・方向性など】 講習会の開催	会議 8 回 参加人数 延べ 96人	多職種連携を円滑に行うためにはどうするか	歯科医師会内でのサルビー見守りネットの普及が少ないため	高齢福祉課
薬剤師部会	麻薬疼痛管理	令和元年11月30日 薬剤師会例会にて勉強会の開催「麻薬について」 令和2年1月11日 多職種ワークショップ参加	会議回数:2回 参加人数延べ:66人	在宅における麻薬の取り扱い	継続検討テーマです	

部会	R1年度検討内容			R2年度 検討内容		
	R元年度検討テーマ	検討内容、結果・方向性	検討回数・方法	検討テーマ	理由	協力してもらいたい部会
訪問看護ネットワーク部会	看取り支援について	<p>超高齢社会、多死社会、急性期病院の入院期間の短縮化が進む中、自宅看取りの需要が高まることが懸念される。また住民の半数以上が自宅で最期を迎えることを要望している。訪問看護ネットワークの会員は現在10か所になっているが、各事業所が看取りケアの質向上に取り組んでいる現状がある。自宅看取りを推進するためには、病院部会との連携が必須である。しかしながら、病院部会で勤務する医療スタッフは在宅医療についての知識不足であり、自宅療養移行前に行われる退院前カンファレンスで有意義な情報共有ができず、連携が上手く取れないことで、スムーズな在宅療養移行ができていない。</p> <p>在宅医療、看取りケアにおける訪問看護師の役割を理解していただく必要があり、医師会、病院部会、薬剤師会、ケアマネット部会と共催で多職種ワークショップを行った。開催にあたり、事例提供をした。当日のグループワークで、前半は退院前模擬カンファレンスをして多職種で意見交換をした。後半は、病院と在宅側の職種ごとに分かれて話し合いをした。情報共有のため、看護サマリーを充実するべく、病院側の過酷勤務状況を把握しながらも、在宅側が望む情報を伝えた。また、在宅側が提出する看護サマリーをどのように病院部会が活用しているかを知ること、記載する内容を検討することができた。</p> <p>お互いが持つ価値観を共有しつつ、視野を広げることになった。</p> <p>また、看取り支援について、ヘルパー部会から要請があり、研修の講師を務めた。さらに、1例ではあるが、地域包括支援センターから要望があり、自治体対象に、訪問看護を活用して自宅で最期を迎える方法をテーマに講師を務めた。一般市民に訪問看護の役割、在宅医療、看取りのプロセス、人生会議についての普及啓発を行った。</p> <p>【結果・方向性など】 部会内で看取りケアの質向上に取り組む ICTを活用した医療介護連携 看看連携のシステム化 一般市民への普及啓発活動</p>	<p>会議回数:計12回 延べ108名 研修1回 参加者11人 方法:ICTを適宜利用</p>	医療廃棄物の破棄方法の検討	<p>・清掃事業所、高齢福祉課、医師会、訪看ネットワーク部会、在宅医療サポートセンターで1回目の会議を行った。情報共有と課題の抽出のみで、対策と対応については継続して検討が必要な事案である。</p> <p>・安城市や他部会と協力してい、市民視点で安全かつ分かりやすい破棄方法(パンフレットの見直し等)の検討が必要のため</p>	清掃事業所、高齢福祉課、医師会、施設部会、ヘルパーネット部会、在宅医療サポートセンター
リハビリネット部会	自立支援の核心に多職種で迫る ～生活機能向上連携加算を引き合いに～	<p>安城市では生活機能向上連携加算がほとんど算定されていないのが現状である。その原因について掘り下げていったところ、各事業所の問題等様々な要因が考えられたが、どのように加算を算定するかよりも、多職種がお互いの強みを知り連携することが本加算の意義であると感じた。そこで、「自立支援」と「連携」をキーワードに研修会を開催し、講義形式で言葉の意味について理解を深めるとともに、グループワークでは各職種の強みを掛け合わせることで自立支援につながることを視覚化し、多職種でも共通理解が得られるよう絵を使用することで連携をより体感できるよう工夫した。</p> <p>【結果・方向性】 研修会を2回開催し、ケアマネジャー・ヘルパー等多職種にご参加いただいた。研修会後のアンケートでは「自立支援について」「各職種の強み」「多職種連携の必要性」「各専門職の専門性・価値観」について、理解が深まったという結果であった。</p> <p>安城市内の事業所において、顔の見える関係は構築されつつあるが、連携を取る上での課題も多いことが明らかになったため、今後は課題解決方法を検討し、そのツールの1つとして本加算算定に向けて各事業所が取り組んでいけると良いと考える。</p>	<p>会議回数:計26回 実行委員:7名 研修会参加人数:1部 目93名、2部目61名、 延べ154名</p>	介護予防に必要なフレイル対策	<p>後期高齢者における要介護の原因1位はフレイルである。したがってフレイルの予防、改善は要介護期間を短縮させ、健康寿命を延伸することが期待されている。</p> <p>しかし、フレイルは身体的虚弱のみならず、精神、心理的要因(認知機能低下やうつ)や社会的要因(閉じこもりや独居)、疾患、薬剤など、さまざまな要因が複雑に絡み合っており老年症候群の中でも最も対応が必要な状態である。その対応には、医療、介護、保健領域に関わる多職種連携が必須となるものの、フレイルの概念は比較的新しいがゆえ、認知度がまだまだ低く、適切な時期に必要な介入が行われていないのが現状の課題である。</p> <p>そのため、本研修会を通し、プライマリケアに関わるすべての専門職にとって、介護予防におけるフレイルという観点を理解することは有用である。</p>	全ての部会
ケアマネット部会	医療機関等との連携について	<p>①医療と介護の連携強化が求められる中、市内各医療機関、安城市サポートセンター、関係機関の協力を頂き、平成30年9月より医療機関との連携について様式の統一を図り運用してきた。年2回(運用開始半年後、約1年後)に、安城ケアマネット定例会にてアンケート実施して連携シートの活用状況、意見集約を行った。市内医療機関よりご意見をいただきながら運用を行ってきた。</p> <p>②在宅医療・介護連携推進のための研修会:多職種ワークショップ「がん末期患者の退院支援模擬カンファレンス」を病院部会、薬剤師部会、訪問看護ネットワーク部会、ケアマネット部会で主催。</p> <p>【結果・方向性など】 ①年2回(運用開始半年後、約1年後)に、安城ケアマネット定例会にてアンケートを実施した。その結果、ケアマネジャーは、必要に応じて連携シート活用も増えているが、まだまだ医療機関との連携を困難に感じている面もあった。また、医師からの返信率(連絡票等)も高くなっている。各医療機関に書類の返信する窓口を整備していただき、医師の手元に届くようになり、記入返信がシステム化されることによると思われる。</p> <p>今後も定期的に各ケアマネジャーに周知徹底していくことが必要であると考えている。来年度も継続して、ケアマネジャー育成の取組みとして5月に「各医療機関の機能・高齢福祉サービスの概要・医療連携(医療者との関わり方、サポートセンターの役割、連携シート)等」研修を行う予定。</p> <p>②多職種で研修会を企画することができた。今度もそれぞれの立場で意見を出し合って情報共有を行っていく。</p>	<p>会議回数:3回 参加人数:延べ161人</p>	多職種連携	<p>医療機関との連携や連携シートの運用については継続して取り組んでいく必要がある。</p> <p>医療連携以外にも在宅生活の支援を行っていくうえで多職種との連携が必要となり部会としても取り組みを検討していきたい。</p>	病院部会、医師会部会

部会	R1年度検討内容			R2年度 検討内容			
	R元年度検討テーマ	検討内容、結果・方向性	検討回数・方法	検討テーマ	理由	協力してもらいたい部会	
小規模多機能部会	小規模多機能ホームの役割・活用方法について 各施設の特徴をお互いに理解する	<ul style="list-style-type: none"> 初めて部会主催の研修会を開催。事例を通して、小規模を知っていただく機会や施設の強みを伝える場となった。 まだまだ小規模、看多機の役割や機能が分かりにくいので、引き続き周知に努めていく必要がある。 地域の現状や小規模多機能ホームの活用についての提案やご意見を自治体などから聞いてみたい。 研修会の事例を通して、他の小規模の状況や、できること、できないことの違いなど知ることができ、部会の会議を通して困難事例の相談等行っているの、困ったときに相談しやすくなった。 令和2年度も研修会において事例中心に研修を行いたい。 部会の会議において、積極的に自施設の症例や、連携について話し合いを行っていく。 知ってもらうための取組みの検討(福祉まつり等の参加のあり方など) 	会議:6回 延べ35人	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議のあり方 小規模多機能ホームの役割と連携 	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議のあり方 小規模多機能ホームの役割と連携 	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議のあり方 地域で活動していくにあたり、開かれた施設で、地域の方々との交流、情報をいかに生かしていくか。もっと運営推進会議を活用していくにはどうしたらいいのか考えたい。 小規模多機能ホームの役割と連携 どういったケースにおいてどう連携できるのか。どんな役割を果たしていけるのか。看取りや実際のケースを通し検討していく。 	ケースによっては訪問看護部会
デイネット部会	「サルビー見守りネット」を通じて事業所間連携を強める	<p>デイサービス同士で、気軽に連絡が出来れば事業所での困り事や、悩み事、加算に関する相談などが可能ではないかと考えました。 安城市の「サルビー見守りネット」のプロダクトチームを活用することにより、より安全な環境下でやり取りが出来るのでは… また、「サルビー見守りネット」の活用で、部会の議事録等の管理も出来るのではと思いました。</p> <p>デイネット部会会員事業所数:40事業所 ①サルビー見守りネットに登録済みの事業所 ②サルビー見守りネット未登録事業所の現状把握と、利用によるメリットを話し合いました。 【結果・方向性】 ①18事業所 ②22事業所 *事業所ごとに未登録の原因はそれぞれ違う(ネット環境がない、グループ展開している事業所などではネットでの情報交換が禁止されている事業所)事もある。 また、部会に参加していないデイサービスもあり、現時点では全ての事業所が「サルビー見守りネット」を活用することが難しいと思われるが、最終的にはシステムが有効に活用できるように今後も進めていきたい。</p>	会議 1回 参加人数 延べ 30人	<ul style="list-style-type: none"> 重度・終末期のご利用者に対してデイサービス・デイケアで何が出来るか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 市全体としてこれから進めていく「看取り」に対して、アンケートを実施したところ、様々な問題が出てきました。 知識・経験不足 看護師の人員配置 他職種との連携 施設(サービス)のターゲット・方針の違い など デイでは、「看取り期」=「サービス中止」となってしまうケースが多いため、話し合う機会が少なかったため、これから検討していきたいと思えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 医師会部会 訪問看護ネットワーク部会 ケアマネット部会 ヘルパーネット部会 	
ヘルパーネット部会	終末期の身体状況や医療処置の知識を深め、患者様やそのご家族へのメンタル支援法を学ぶ	<p>研修会の開催にて終末期を迎えた患者様の身体状況と観察すべき部分や、医療処置について学び、不安を持つ介護員の多くが連携する訪問看護師により安心を得ていることが確認できた。</p> <p>病院部会からは学術集会にお誘い頂き、医療機関や行政から見える様々な問題点などを知る機会や他事業所間で問題解決について共有し合えた。定例会では生前整理普及協会より講師を迎え、各々の終末期を迎えたときや身近な人達も含め、余命宣告されることの深さを確認した。</p> <p>またそれ以外にも総合事業を振り返る機会や障害支援の作業部会との交流も深めている。</p> <p>学習会を頻りに設けたことでサービス提供責任者だけに留まらず、登録ヘルパーへもアプローチし、事業所を超えてサービス提供責任者と訪問介護員が意見を出し合い、学べたことが大きな成果となった。今後も定例会に留まらず、学習の機会を設けていくことで、他職種への連携に繋げていく機会が必要</p>	<p>会議 6回 参加人数 延べ 72人 研修 2回 参加人数 延べ 138人</p>	<ul style="list-style-type: none"> 訪問介護から見える利用者様の状況を分かりやすく連携するための報告力と観察力を学ぶ 		すべての部会	
施設部会	①介護人材の確保・育成 ②施設間の情報共有・連携強化	<p>施設部会では今年度の検討テーマとして『介護人材の育成・確保』、『施設間での情報共有・連携強化』について会議を実施した。</p> <p>検討内容として</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各施設での外国人雇用についての現状確認や課題についての情報交換や意見交換を実施した。 ○防災について、安城市特定福祉避難所としての開設・運営マニュアルの確認や検討を実施した。また、防災研修『KIZUKI』を施設部会で開催し防災についての啓発・啓蒙に努めた。 ○部会内において、各施設の生活相談員・生活支援員の意見交換や情報交換の機会(10施設17名参加)を設け職種間での交流を図った。 <p>各施設共通の課題に対して、部会内で情報交換や意見交換をすることで施設間での連携を深めることができた。今後も同様のテーマや方向性を継続して施設間での連携強化を図っていきたい。</p>	会議 6回 参加人数 延べ 90人	<ul style="list-style-type: none"> ① 施設間での情報共有・連携強化 ② 介護職員の人材育成や人材確保 	<ul style="list-style-type: none"> ① 施設間での情報共有や連携を図ることで、互いの施設が相談する機会を持つ事ができ、市内全体の施設運営 ② 安定的な施設運営や施設サービス向上のために施設間での情報共有を図り、人材確保や人材育成について各施設が協働し相乗していけるよう連携していきたい。 		

部会	R1年度検討内容			R2年度 検討内容		
	R元年度検討テーマ	検討内容、結果・方向性	検討回数・方法	検討テーマ	理由	協力してもらいたい部会
グループホーム部会	1.地域の認知症をサポートする支援の取組について 2.各グループホームで困っていることについて					
保健福祉部会	8050の予防と介入～実践力を高めるために～	<p>【検討内容】 平成30年度に検討した「8050の予防と介入」について、自分たちのマニュアルとするために作成した連携先リストについて、連携先の追加や具体的な支援の確認作業を行った。また、支援に関する目指す姿についての検討を行うとともに、各機関との具体的な連携の方法・役割について、事例検討や障害・自立支援など他部門も含めた情報交換や、このテーマとの連動性を持たせた研修企画を実施しながら、実践力を高めることを目的に検討した。</p> <p>【結果・方向性】 ・事例検討を通して制度の理解や様々な事例があること、支援の方法等を知り、実践に向けての学びとなった ・連携先リストによるつなぎ先の「見える化」ができた ・他部門との協議により、業務や立場の違いがわかった。 ・望ましい支援体制が確立されていないのが現状。支援が困難だからこそ、連携が大切。顔の見える関係づくり、お互いの業務の理解が必要。 ・他部門との事例検討会やワークショップ等、継続実施の必要性。</p> <p>【備考】 部会内での検討テーマとしては一旦終了とするが、定期的に連携先リストの情報更新や事例検討を行うとともに、今後も重点課題として必要時検討していく。</p>	<p>会議)20回 保健福祉部会開催時・検討テーマおよび研修企画に関するプロジェクトチームによる企画立案を実施</p> <p>連絡)メール・電話の他に、サルビー見守りネットを利用</p> <p>その他)検討テーマと連動した多職種参加による研修実施</p>	自立支援について(介護予防を含む)	<p>令和2年度より自立型ケアマネジメントの強化及び多職種の視点によるケアの質の向上を目的に「自立支援サポート会議～みんなでもう一歩」を定期開催。</p> <p>「自立支援サポート会議」を開催していく中での振り返りを行いながら、必要な修正や提案、検討を行う。</p> <p>この会議をより良いものとするとともに、部会に出席している国保係、健康推進課との連携により、介護予防の一体的実施を図ることができるよう、日々の課題や対応についても検討していく。</p>	